

入 試 年度	2026 年度	入 試時期	I 期入学試験	実施日	2025 年 9 月 17 日
課程	博士前期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	臨床人間学専攻教 育学専修
入 試 方式	外国人留学生入学試験		試験科目	日本語	
「解答」または「解答例」及び「出題の意図」					
【解答】 or 【解答例（採点時の観点）】					
[1]					
(1)は前後の文も踏まえて、日本語文の内容と文脈を理解し、本文中から適切な語句を選択できるか試した。[正解：①閲覧席、②中小規模、③貸出し、④図書館] (2)は日本語文全体を理解できているか、本文中の特定事項について、限られた文字数により日本語での確に要約できているかを確認した。					
[2]					
主題					
学校教育は、平等な機会を掲げながらも文化的要因を媒介として階級・階層的地位の再生産に関わっている。					
要約（400 字程度）					
近現代社会では、教育達成が職業的地位の獲得に大きく関わるため、学校教育は社会的上昇を可能にする「社会的エレベーター」とみなされてきた。とくにフランスでは、世俗的で無償の公教育が整備され、意欲と能力があれば誰もが成功できると考えられた。しかし実際には、大学やグランド・ゼコールへの進学者には上層階級出身者が著しく多く、学校的成功は職業的成功へと結びつき、階級的地位の再生産をもたらしていた。ブルデューらは、この格差を経済的要因だけで説明することはできないと考え、文化的要因に注目した。すなわち、学校で正統とされる文化や言語、価値観は上層階級の子弟に有利に働き、他の階層の子弟には「文化的障害」となる。ブルデューの理論は、学校教育が文化資本、言語資本、ハビトゥスを通じて社会的再生産を媒介する過程を明らかにするものである。					
【出題の意図】					
[1]					
日本語を母語としない外国人留学生の日本語の読解能力を問う問題である。[1] は教育学専修の 4 領域のうち、「図書館情報学領域」に関する日本語文を、試験時間内に正確に読み、その内容の理解度を日本語で解答することにより試した。					

〔2〕

この問題は、受験者が本文の中心的主張を的確に把握し、それを一文で簡潔に表現する力と、論旨を過不足なく要約する力をみるものである。本文では、学校教育が機会均等や社会的上昇を可能にする制度として語られながら、実際には階級・階層的地位の再生産に関わっていることが論じられている。したがって、ブルデューらの文化的再生産論を踏まえ、教育達成の格差を経済的要因だけでなく、文化資本・言語資本・ハビトゥスなどの文化的要因から説明できるかを確認する意図がある。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。